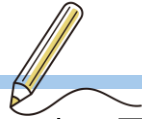


# ゼロカーボンシティ八雲に向けた取り組みについて

## 1) 意識啓発



- 町広報、ホームページによる周知（気候変動・省エネの取り組み・助成制度）  
CN推進協議会 広報記事掲載 令和4年：10回 令和5年：4回 令和6年：11回 令和7年：6回

- 出前説明会テーマ設定 「地球温暖化について学ぼう！」 令和7年4月～  
実績：0回

- 環境教育（出前授業）の実施 協力：北海道八雲ソーラーパーク合同会社

日時：令和7年11月17日（月）

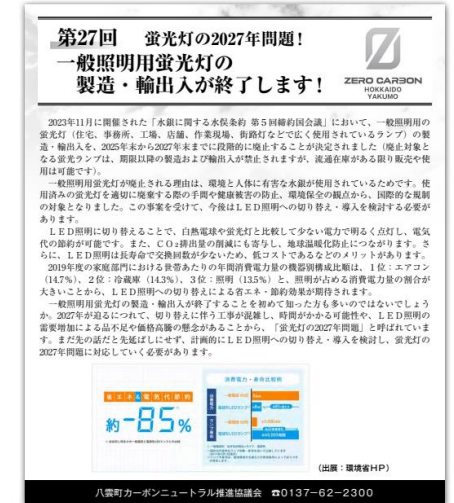
対象：八雲小学校6年生 3クラス 計76人

1クラスあたり2コマで実施

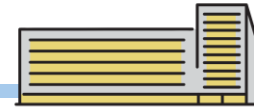
内容：テーマ「まだ誰も気づいていない学校の中でつくれる未来の“0円エネルギー”を探そう！」

子どもたちが主体的・創造的にエネルギーを考える体験型環境教育プログラム

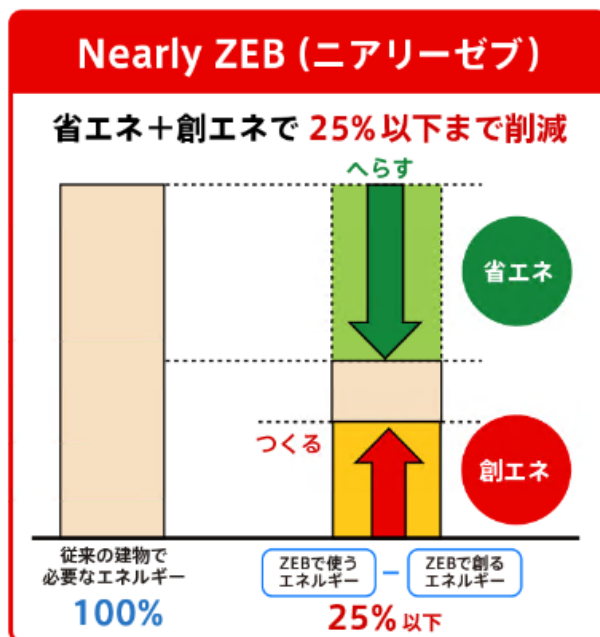
外部講師を招きフィールドワーク、グループワーク、発表を行い子どもたちが主体的かつ創造的にエネルギーを考える機会をつくる



## 2-1) 公共施設の脱炭素化 【新庁舎建設】



ゼロカーボンシティの実現に向けて町のシンボルとなる本庁舎は「八雲町のあたらしい賑わいの拠点として親しまれ、持続可能で人にも環境にもやさしい役場庁舎」を基本コンセプトとしています。道産材をはじめとした自然素材や再生可能エネルギー、高効率ヒートポンプ機器等を積極的に導入することにより【NearlyZEB】を取得し、ホールライフカーボンの大幅な削減を目指します。



### ZEBとは？

「ZEB」は先進技術を駆使し、室内環境の快適性と省エネ性を両立した非住宅建築物の認証制度。“省エネ”と“創エネ”を組み合わせ、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロになるように設計されます。

ZEBが年間の一次エネルギー消費削減量が基準比で100%であるのに対し、「NearlyZEB」は75%以上（省エネ50%+創エネ25%）の削減で認められているという違いがあります。再生可能エネルギーの導入容量が限られる建築物に適しています。

## 2-2) 公共施設の脱炭素化 【LED照明化】

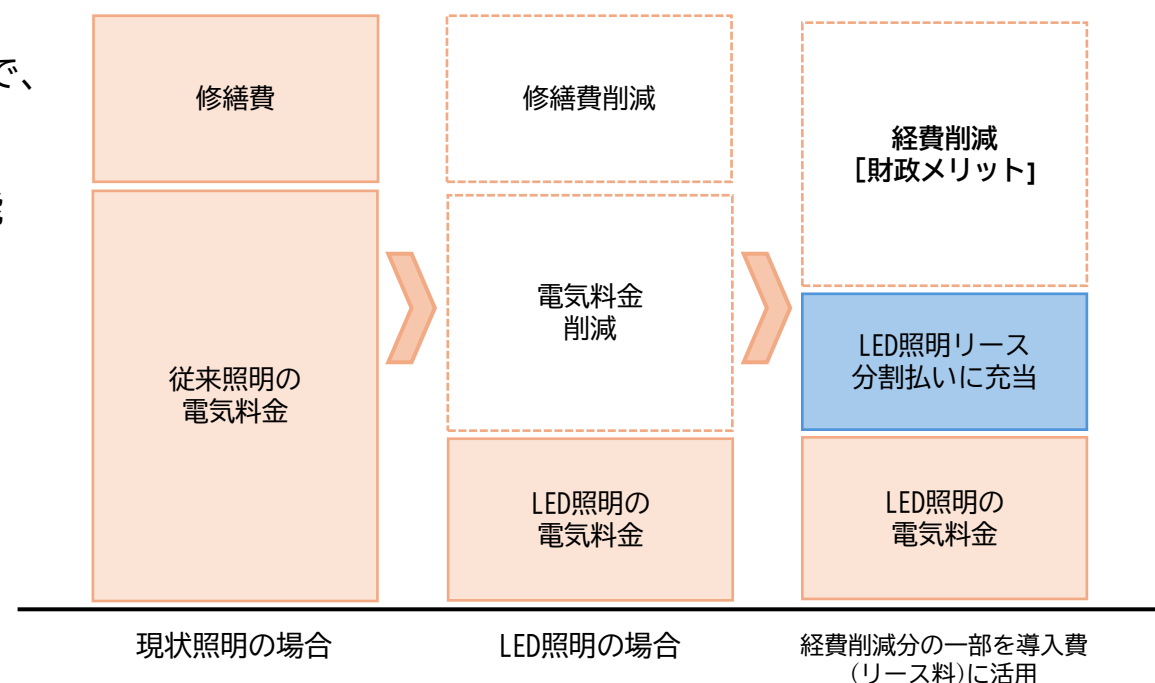


### 【背景】

- ・2023年11月に締結された「水銀に関する水俣条約」に基づき、2025年から2027年にかけて水銀を含む蛍光管の全面製造禁止が決定しており、日本政府においても2024年12月に閣議決定されている。
- ・今後、蛍光管が製造されなくなることにより、LED照明の需要増加に対して供給が追いつかず、入手困難になり不点灯となるリスクが生じる。
- ・多くの公共施設において一斉に照明更新工事を行う場合、多大な費用が必要となるだけでなく、LED照明の調達も困難になる恐れがある。
- ・従来型照明は電気料金が高く、また修繕・交換等の維持管理費が必要となっている。
- ・LED照明へ更新することで電気料金を大幅に削減でき、修繕費も不要となり、維持管理負担が軽減される。
- ・以上のことから、長期リース契約によりLED照明を導入することで、初期導入コストを縮減しつつ、早期の電気料金削減を実現することが適切である。

### 【LED照明の導入方法（仕組み）】

- ・LED照明導入に係る初期費用をリース方式により分割払い
- ・LED化によって削減された電気料金の一部をリース料に充当することで、新たな財政負担を生じさせずに導入可能
- ・リース会社は、取替工事及びメンテナンスを地元電気工事会社に委託
- ・削減効果の残余分については、自治体の経費削減効果として活用可能



### 3) Jクレジット制度の活用



令和6年11月25日 株式会社ステラグリーンと連携協定を締結



八雲町と森林カーボンクレジットを活用して、環境価値の創出や地域活性化を推進する（株）ステラグリーンとの間で連携協定を締結しました。売却益を活用して、森林整備を進めていきます。

#### 【連携事項】

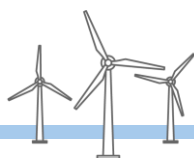
- (1) 脱炭素社会の実現に向けた取組に関する事
- (2) 森林カーボンクレジットの創出にかかる実証事業に関する事
- (3) 持続可能な一次産業（農林水産業等）に関する事
- (4) 地域資源を活用した事業の推進に関する事
- (5) その他地域活性化に関する事

Jクレジットとは、省エネ設備導入や森林管理などで削減・吸収された温室効果ガス量を国が認証した「クレジット」で、これを購入して排出量の調整やカーボン・オフセットに活用したり、創出したクレジットを売却することで利益を得ることができます。

#### 【八雲町Jクレジット概要】

対象森林 : 森林経営計画認定森林 約5,000ha  
期 間 : 8年間（2033年3月31日まで）  
想定吸収量 : 66,301t-CO<sub>2</sub>

### 4) 檜山沖洋上風力発電事業



別紙資料2 産業課より情報提供



## 5) 八雲水力発電株式会社 熊石平田内川水力発電所 運転開始

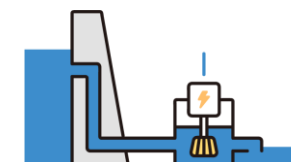


脱炭素化社会の実現を目指す取り組みの一環として、2014年から計画が進められてきた熊石地区の平田内川を利用した「平田内川水力発電所」が完成し、10月7日に落成式が執り行われました。本発電所には、チェコ共和国のMAVEL社製の水車が設置されており、落成式には駐日チェコ共和国大使のマルチン・クルチャル氏、MAVEL a.s代表取締役のジリー・ヴァイス氏も出席されました。八雲町は、民間活力の活用と官民連携を図ることを目的に、事業運営会社である八雲水力発電（株）に出資をしています。



### 【概要】

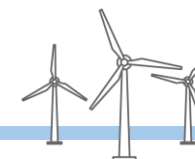
流量：0.62 m<sup>3</sup>/s  
有効落差：約 73 m  
最大出力：0.025 m<sup>3</sup>/s



### 【出資体制】

|                  |        |
|------------------|--------|
| 八雲町              | 7.3 %  |
| 日本発電（株）          | 42.0 % |
| 興和工業             | 8.7 %  |
| (株)大地とエネルギー総合研究所 | 8.7 %  |
| 日本小水力発電（株）       | 20.0 % |
| (株)高橋組           | 13.3 % |

## 6) ★民間事業者の取り組み … ENEOSリニューアブル・エナジー(株) 陸上風力の検討



### ① (仮称) 北海道八雲町風力発電事業

#### ▼ 概要

発電出力：64.5MW  
(4.2MW程の風力発電機を最大15基 ※8基になる見込)  
実施予定地：八雲町黒岩地区山間部  
年間発電量：約3万世帯の年間消費電力を発電  
CO2削減量：約7.5万トンCO2想定削減効果  
運転開始予定：2031年（着工2027年）

#### ▼ 進捗状況

環境アセスメント：2023年10月に方法書説明会開催  
2025～2026年中に準備書説明会開催予定  
令和6年12月14日 再エネ特措法に基づく町民説明会 @はぴあ八雲  
令和7年10月25日 //  
(事業予定地に詳細地番を記載していなかったため)

### ② (仮称) 今金せたな風力発電事業

#### ▼ 概要

発電出力：79.8MW (4.2MW程の風力発電機を最大19基)  
実施予定地：今金町金原、日進  
せたな町北檜山区栄、若松、富里  
八雲町上八雲…風車ではなく変電所の設置  
年間発電量：約5万世帯の年間消費電力を発電  
CO2削減量：約11.6万トンCO2想定削減効果  
運転開始予定：2031年（着工2028年）

#### ▼ 進捗状況

環境アセスメント：準備書縦覧（令和7年9月9日～10月9日）  
令和7年1月18日 再エネ特措法に基づく町民説明会  
@ペコレラ学舎

## 7) 省エネルギーの推進補助事業の実施



温暖化対策実行計画（区域施策編）

八雲町の温室効果ガス排出量削減対策の基本方針 ①省エネルギーの推進

重点施策：「省エネルギー設備次世代自動車の普及」

町の取り組み：自動車の環境負荷軽減 「次世代自動車に関する情報提供や助成制度の創設について検討します。」

### 令和8年度予算（たたき台） 『クリーンエネルギー自動車購入補助金』

#### 【目的】

旧年式の車両から、走行中に二酸化炭素を排出しないCEVへの乗り換えを促進することで自動車による環境負荷を減らすと同時に、災害時の非常用電源として利用できることから、防災対策と併せて二酸化炭素排出量を削減する取り組みが必要。需要の創出や車両価格の低減を促すことを目的とする。

#### 【内容】

対象車両：EV（普通自動車・軽自動車）、PHEV の購入費用の一部を補助する。